

GRADE システムを利用したと言えるための最小限の基準

ガイドライン名:

date

評価者

チェック項目	判定
1. エビデンスの質(効果推定値における確信)は、GRADE Working Group が採用する2つの定義(ガイドラインまたはシステマティック・レビューのいずれか)により、一貫して定義すべきである。	
2. エビデンスの質評価のための8つの GRADE 基準(risk of bias/研究の限界、エビデンスの非直接性、結果の非一貫性と不精確さ、出版バイアスのリスク、効果の大きさ、用量反応勾配、ありそうな残余交絡・相反バイアス(antagonist bias)の影響)を、用語の違いがあるにしても、明確に記述すべきである。	
3. 各重要なアウトカムのエビデンスの質(効果推定値の確信)を、4段階(「高」、「中」、「低」、「非常に低」、あるいは正当性が認められるならば、3段階(例:「高」、「中」、「低(「低」および「非常に低」を1つにして)」)にて、GRADEワーキンググループが採用する定義に合致した各段階の定義に基づき、評価ならびに等級付けすべきである。	
4. エビデンスステابلあるいはエビデンスを詳細に解説した要約の中で、上述のポイント2の要因に関する判断を透明性の高い形で説明し、これを、エビデンスの質と推奨の強さの判断基準とすべきである。理想的には、GRADEワーキンググループが提唱する完全版エビデンスプロファイルを使用すべきであり、エビデンスプロファイルはシステマティック・レビューをベースとすべきである。少なくとも、評価されたエビデンス、ならびにそのエビデンスの同定や評価に使用した手法を明確に記述すべきである。特に、グレードアップやグレードダウンの理由についてはわかりやすく説明すべきである。	
5. 推奨の強さを決定するための4つの GRADE 基準(望ましい帰結と望ましくない帰結のバランス、エビデンスの質、影響を受ける人の価値観と好み、資源の利用)について明確に考慮し、一般的アプローチを報告すべきである(例: コストを考慮したかどうかや、その方法、ならびに誰の価値観と好みを前提としたのかなど)。	

6. 特定の治療選択肢に対する肯定的または否定的な推奨の強さは、2つのカテゴリ(弱い、強い)で示すべきであり、各カテゴリーの定義と解釈は、GRADE ワーキンググループが採用する定義に合致すべきである。弱い/条件付き推奨と強い推奨以外の用語を使用する場合でも、その解釈や内容は、GRADE ワーキンググループの定義に合致すべきである。	
7. 理想的には推奨の強さに関する判断をわかりやすく報告すべきである。	

(本基準は、GRADE working group の web サイトで公開されている内容を翻訳したものです)